

目次

	頁
はじめに 生きもの多様性プランを通じて考えたいこと	1
1 生きもの多様性とは	4
1.1 生きもの多様性とは（3つのレベルの多様性）	4
1.2 生きもの多様性の恩恵（生態系サービス）	5
1.3 生きもの多様性の危機	6
1.4 生きもの多様性を取り巻く社会情勢や動向	7
2 生きもの多様性プランの基本的な考え方	13
2.1 基本的な考え方	13
2.2 対象区域	14
2.3 計画期間	14
2.4 計画の位置づけ	15
3 柏市における生きもの多様性の現状と課題	16
3.1 柏市の自然環境	16
3.2 柏市における生物の現状	26
3.3 柏市における自然環境の保全・再生に係るこれまでの取組	33
3.4 柏市における生きもの多様性に係る課題	36
4 生きもの多様性プランの将来像と基本方針	38
4.1 将来像	38
4.2 将来像を実現するための考え方	39
4.3 基本方針	40
4.4 計画の体系	42
5 施策の展開	44
5.1 [基本方針1] 柏らしい生きもの多様性を守り、育てる	44
5.2 [基本方針2] 生きもの多様性への関心を高め、広げる	60
5.3 [基本方針3] 生きもの多様性のために行動する	65
6 推進体制と進行管理	69
6.1 推進体制	69
6.2 各主体の役割	71
6.3 進行管理	72

資料編	73
1) プランの策定体制と策定経緯	74
2) 柏市人里の生きものリスト	79
3) 市域で生息が確認されているレッドリスト掲載種一覧	89
4) 用語解説	95



柏から地球につながる生きもの多様性の保全

際限のない人間の活動により、今この時も「生きもの多様性」が失われつつあります。私たちも、地球の生きもの多様性を構成する一員です。柏市から身近な多様性を保全していくことは、地球の生きもの多様性を保全していくことに密接につながっています。

はじめに

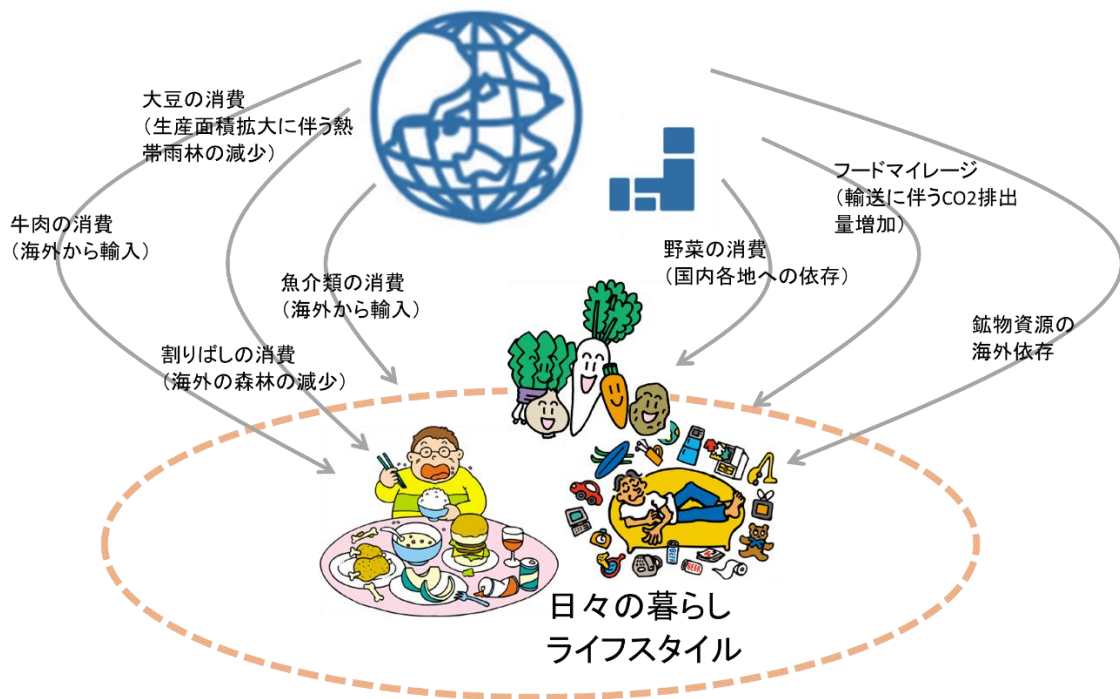
生きもの多様性プランを通じて考えたいこと

私たちの暮らしは、多様な生きものと生態系に支えられています

毎日の食事や衣服、家具など身の回りにはあるものはどこから来ているのでしょうか。現在、私たちは、外国から輸入される食品やエネルギー、つまり世界の生きものに多くを依存しています。外国の資源を私たちが大量に利用することによって、その地域の生きもの多様性だけでなく、地域の人々の生活にも影響を与えています。

このように、私たちは、水や食べもの、衣服、住まいの材料など、多くのものを自然の恵みとしてもらって生きています。また、自然とのふれあいや自然の中で感じるいやしの効果など、自然そのものからも様々な形で支えられています。

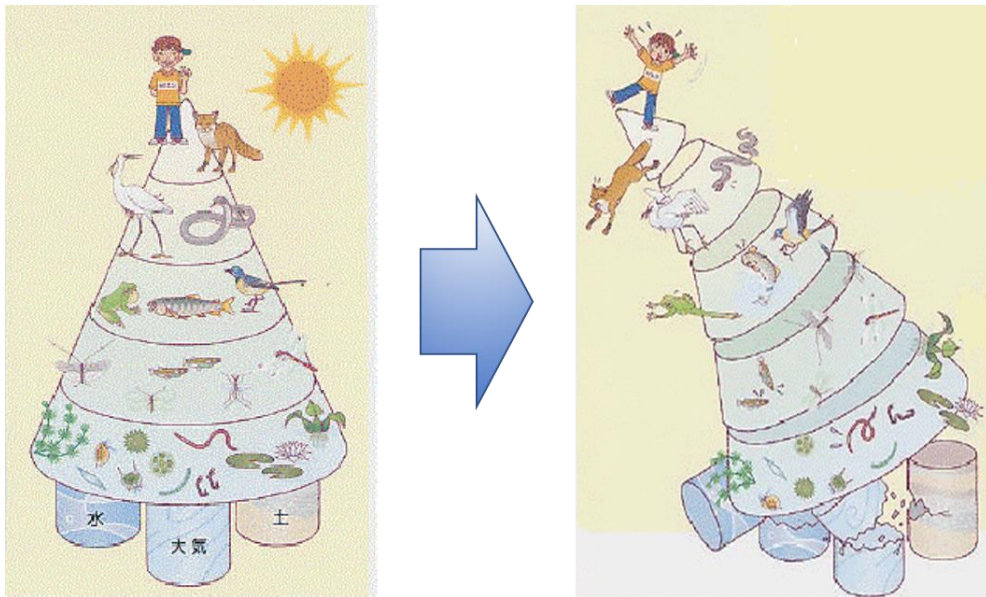
◆市民生活・暮らしと生きもの多様性



生きものは、お互いにつながりながら、生きています

すべての生きものは、お互いにつながりあい、それぞれの役割をもって生きています。個々の動植物は、その生息・生育空間において、周りの環境要素に左右されながら、それぞれ相互に依存（影響）し合い、複雑な関係性のなかで生きています。食物連鎖の関係でも明らかのように、一部が欠損すると、その生態系に大小の影響が生じることはもちろんのこと、多様性が失われ、貧弱な生態系となり、私たちの生息基盤が脅かされることとなります。

◆生態系ピラミッドの変化



要因：生育・生息環境の減少と悪化，外来種の侵入

出典：次世代のための化学物質対策～生態系を守るために～（平成 14 年環境省）

生きものの多様性に目を向けることは、まちや地域のあり方、私たちの暮らし方、生活そのものを見つめなおすことにつながります
 私たちの子や孫、未来のために、想像しましょう

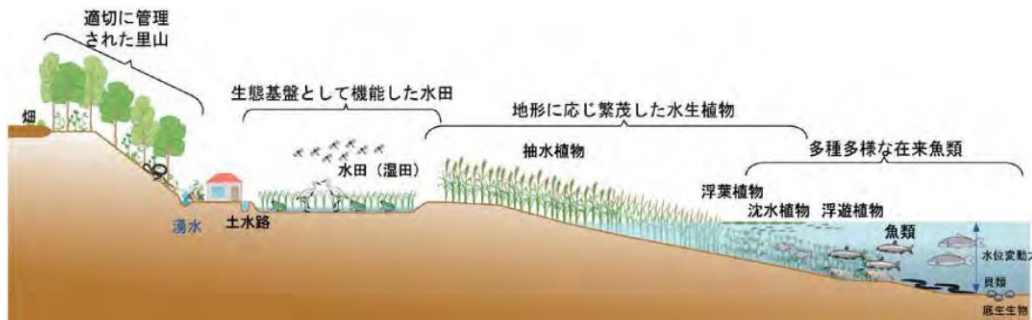
私たちが享受している利根川、手賀沼、樹林などの柏の自然は、長い年月と人の営みの中で育まれてきました。

手賀沼は、高度経済成長による周辺の都市化に伴い、生活排水や産業排水が流された結果、その水質汚濁と富栄養化は全国有数となってしまいました。

昭和30年頃に比べ現在では、水質の悪化や水辺地の消失等により、従来から生育・生息していた水生植物や鳥類、魚類等の種類が減少しています。

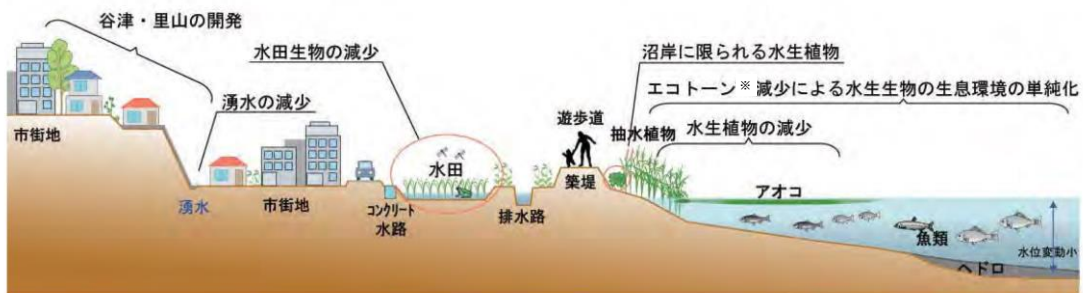
かつての手賀沼周辺は、斜面林～農耕地～水生植物帯～水面と連続した自然環境であり、それらは繁殖場など生物に豊かな生息生育環境を提供し、生態系との調和が確保されていました。

◆かつて（昭和30年頃）の手賀沼



現在は、下図に示すように市街地・宅地開発、水田の乾田化等により、陸地における自然環境が減少したことや沼の干拓や治水対策により沿岸が整備され、沼と陸との境界域にある湿地帯が縮小するなど、それぞれの場所に生息していた動植物が減少しています。

◆現在



※エコトーン：2種類以上の生態系の境界で、全く異なる環境が移行する場所を指す。例えば陸域と水域の境界、農地と森林の境界などである。（国立環境研究所ホームページより引用）
 出典：手賀沼水循環回復行動計画（平成30年4月、千葉県）

生きもの多様性から生まれる恵みは、過去の世代から現在の世代に引き継がれてきましたが、今日ではこれを将来の世代に継承できるか危ぶまれています。現在の世代の私たちは将来の世代に継承できるよう、効果的な施策を実行する必要があります。